

JAとうと 自己改革レポート

JAとうとは、地域農業・地域を支える役割を担うよう、自己改革を進めています。
ここに、その取り組み内容の一部をご紹介します。

農業所得の増大に向けて

■直売所への出荷を目指して

地元の直売所に出荷する農家さんを支援するよう、県や市の協力を得ながら「野菜づくり塾」を開講しています。

当JAは、これからも直売所への出荷を目指して野菜づくりに取り組まれる皆さんを支援していきます。

■おいしい米づくりに向けた取り組み

米の収量、品質、食味向上のために、県農林事務所の協力を得ながら、土壌診断や食味検査、各種生産資材の効果測定を行っています。



地域の活性化に向けて

■食農教育活動

地域の未来を担う子どもたちに、食を支える農業の役割、農業と生活・社会との関わり、地域の食文化、いのちと健康の尊さなどについて理解を深めてもらうための「食農教育」を関係機関や農家の皆さんの協力を得ながら行っています。

○小学校での出前授業

管内の小学校に訪問し、米づくりや大豆栽培の授業を行いました。



○体験農場で稲刈り体験

きなあつ瑞浪前の当JA体験農場で、地元小学校5年生が稲刈りを体験しました。



○秋の味覚収穫体験

当JA体験農場で地元幼稚園、保育園の園児らがサツマイモの収穫を体験しました。



地域貢献

■感謝の気持ちを込めて、今年度も地元3市に寄付

当JAは地域の皆さまへの日頃の感謝の気持ちを込めて、農業振興や地域振興にお役立ていただくため、事業エリアの地元3市(多治見市、瑞浪市、土岐市)へ寄付をさせていただきました。

多治見市には安全性を考慮したアルミ製サッカーゴール(市営運動場に設置)を寄贈いたしました。瑞浪市には上下水道施設の点検、維持管理にお役立ていただくために100万円を寄付いたしました。土岐市には高齢者や障害者を対象に戸別にごみを回収する事業(さわやか収集事業)で使用する車両を寄贈いたしました。

これからも、地域の皆さまが安心して暮らせるまちづくりを支援してまいります。



▲アルミ製サッカーゴール



▲上下水道点検用車両



▲ごみ収集用軽ダンプ

■福祉施設に米寄贈

多治見市社会福祉協議会がすすめるフードバンク事業を支援するために、精米を寄贈いたしました。また、社会福祉法人「陶技学園」、土岐市老人保健施設「やすらぎ」へ新米を寄贈いたしました。

これからも、社会福祉貢献活動を通じて地域の皆さまのお役に立てるよう努めてまいります。



▲陶技学園の前田理事長(右)に目録を手渡す坂崎姫支店長(左)